



令和 3 年 度
県 政 世 論 調 査
概 要 報 告 書

2 0 2 1



静 岡 県

目 次

| | |
|--------------------------|----|
| 調査の概要 | 1 |
| <生活についての意識> | |
| 1 暮らし向き | 2 |
| 2 日常生活の悩みや不安 | 3 |
| 3 静岡県の住みよさ | 4 |
| <県の仕事に対する関心> | |
| 4 県政への関心度 | 5 |
| 5 行政機関への意見や要望、不満 | 6 |
| 6 広報媒体の浸透度 | 8 |
| 7 日常の課題や生活における意識 | 11 |
| <自殺に対する意識> | |
| 8 自殺に対する意識 | 21 |
| <静岡県の社会資本整備に関する意識> | |
| 9 静岡県の社会資本整備に関する意識 | 23 |
| <景観に関する意識> | |
| 10 景観に関する意識 | 25 |
| <循環型社会形成に関する意識> | |
| 11 循環型社会形成に関する意識 | 27 |
| <県民幸福度に関する意識> | |
| 12 県民幸福度に関する意識 | 28 |
| 13 コロナ禍での幸福感の変化 | 29 |

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 自殺に対する意識
- (4) 静岡県社会資本整備に関する意識
- (5) 景観に関する意識
- (6) 循環型社会形成に関する意識
- (7) 県民幸福度に関する意識

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,500
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- (6) 調査時期 令和3年6月9日～7月2日
- (7) 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

| | 18歳以上の推定人口 | 標本数 | 有効回収 |
|------|------------|-------|---------------|
| 東 部 | 1,011,552 | 1,174 | 650 (34.2%) |
| 中 部 | 969,308 | 1,103 | 557 (29.3%) |
| 西 部 | 1,078,878 | 1,223 | 642 (33.7%) |
| 地域不明 | - | - | 54 (2.8%) |
| 全 県 | 3,059,738 | 3,500 | 1,903 (54.4%) |

この冊子の読みかた

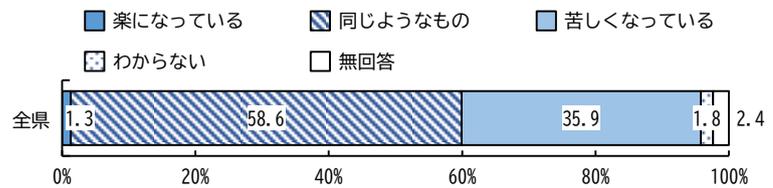
- 1 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを100%で表した。「SQ」（Sub-Question の略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。
- 3 標本誤差に応じて集計値を補正している。そのため、各設問・選択肢の回答状況が本来の有効回答数（n=1,903）に占める割合と一致しない部分があり、混乱を避けるため報告書のグラフ等においては回答者数（n）を表記していない。

1 暮らし向き — 「苦しくなっている」は35.9%

| | |
|----|--|
| Q1 | お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。(〇は1つ) |
| SQ | お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由はなんですか。(〇は3つまで) |

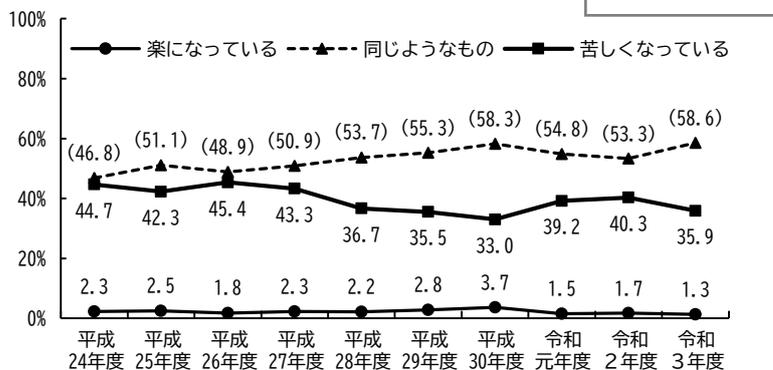
暮らし向き

- 「同じようなもの」と回答した人の割合が58.6%と最も高く、「苦しくなっている」の35.9%を上回っている。



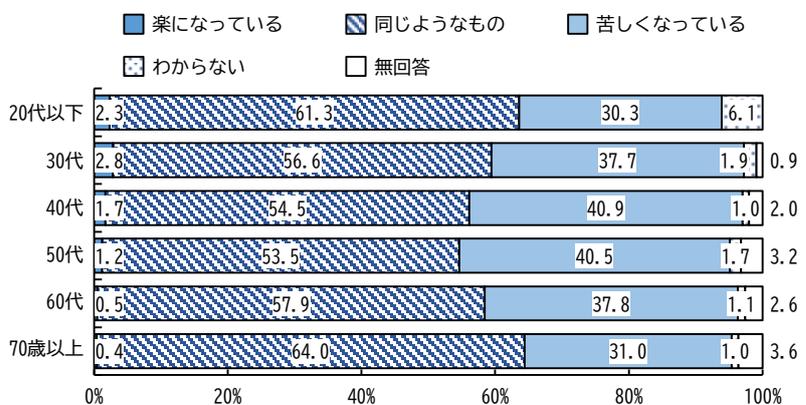
経年比較

- 「苦しくなっている」人の割合は、令和2年度には4割を超えたが、今年度は35.9% (前年度比-4.4ポイント) と3割台に下がっている。



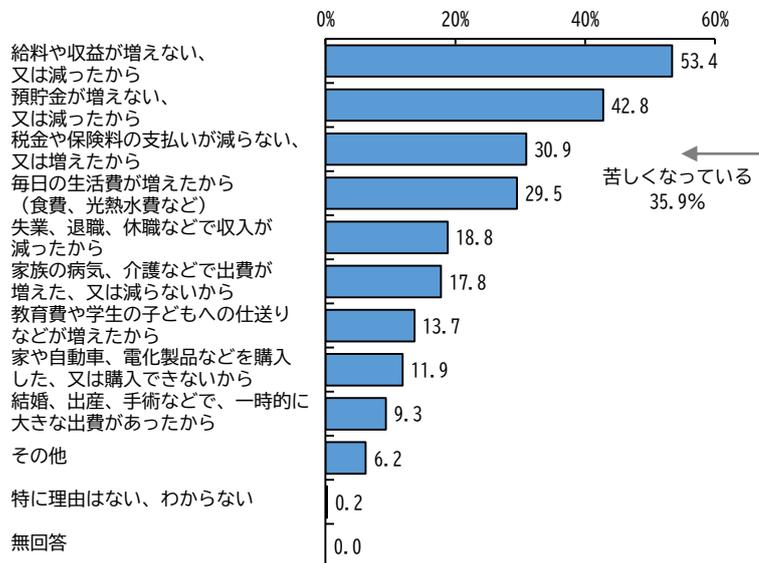
年代別

- いずれの年代も「同じようなもの」と回答した人の割合が「苦しくなっている」を上回っている。
- 「苦しくなっている」人の割合は、『20代以下』(30.3%) が最も低く、『40代』(40.9%) が最も高くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

- 「給料や収益が増えない、又は減ったから」(53.4%) が最も多く、以下「預貯金が増えない、又は減ったから」(42.8%)、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」(30.9%) などとなっている。

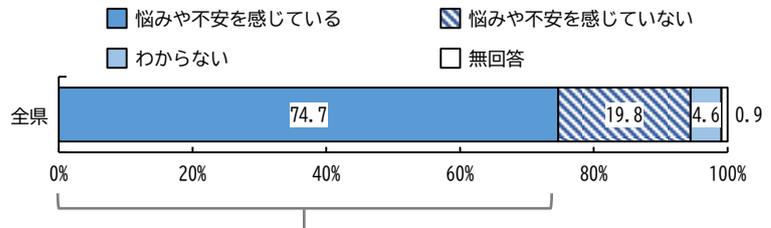


2 日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人は74.7%

| | |
|-----------|--|
| Q2 | あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。(○は1つ) |
| SQ | 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(○はいくつでも) |

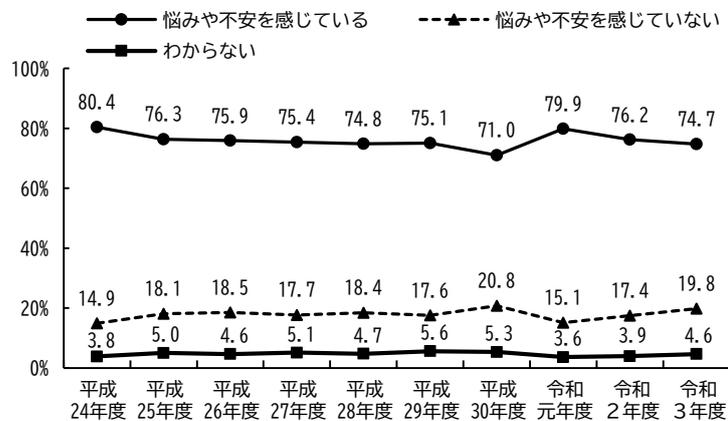
日常生活の悩みや不安の有無

- 「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は74.7%で最も高く、「悩みや不安を感じていない」は19.8%だった。



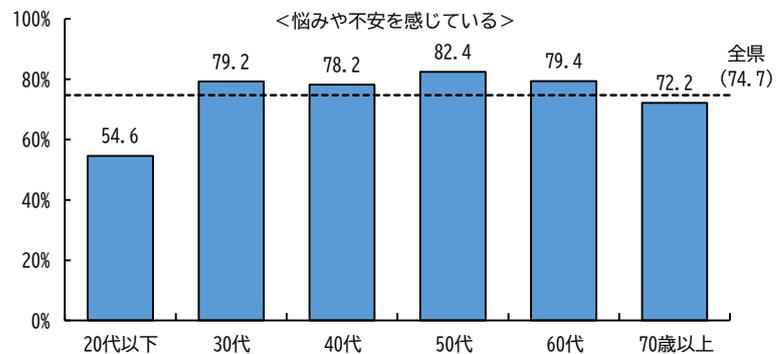
経年比較

- 「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成24年度以降においては7割以上で推移している。



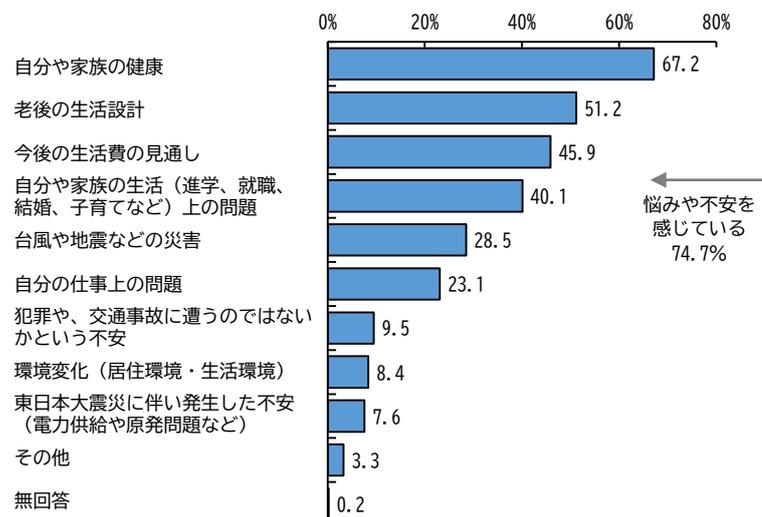
年代別

- 「悩みや不安を感じている」人の割合を年代別にみると、『20代以下』(54.6%)が最も低く、『50代』(82.4%)が最も高くなっている。



SQ 悩みや不安の内容

- 「自分や家族の健康」(67.2%)が最も多く、以下「老後の生活設計」(51.2%)、「今後の生活費の見通し」(45.9%)などとなっている。

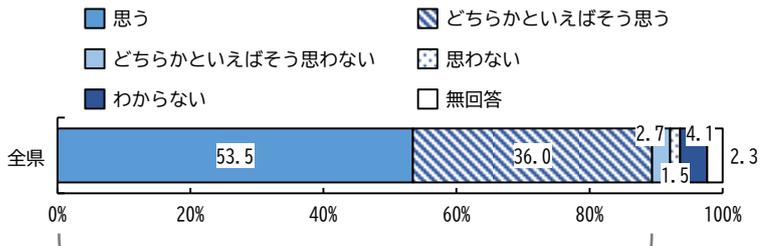


3 静岡県の住みよさ — 住みよいところだと「思う」人は89.5%

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| Q3 | あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(〇は1つ) |
| SQ | あなたが、静岡県が住みよいところだと思う理由はなんですか。(〇は3つまで) |

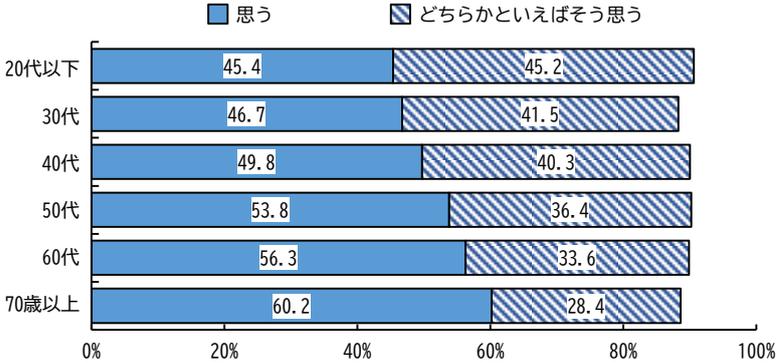
静岡県の住みよさ

●静岡県は住みよいところだと“思う”人の方が圧倒的に高く、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”が89.5%、「どちらかといえばそう思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”が4.2%となっている。



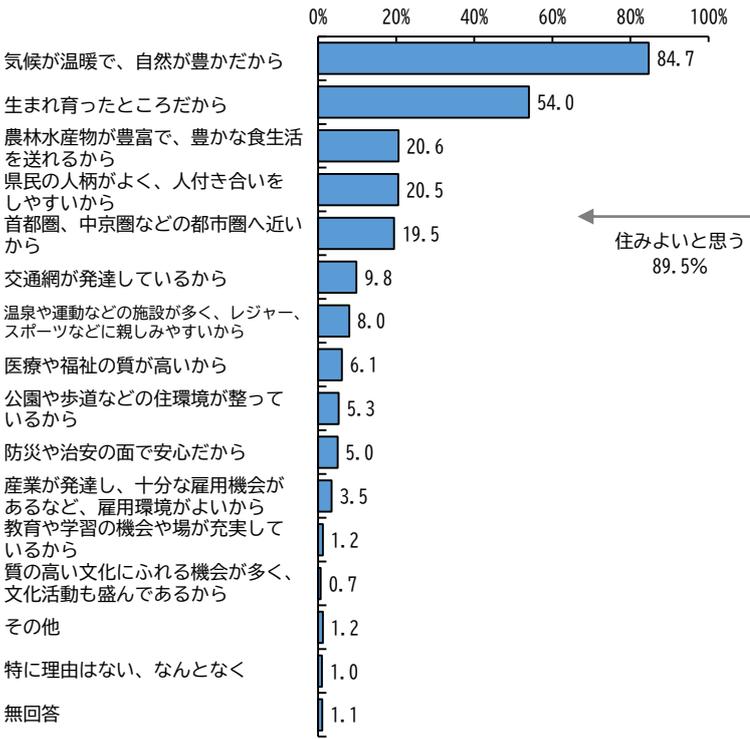
年代別

●『70歳以上』は、「思う」(60.2%)が全体と比較して高くなっている。



SQ 住みよいところだと思う理由

●「気候が温暖で、自然が豊かだから」(84.7%)が最も多く、以下「生まれ育ったところだから」(54.0%)、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」(20.6%)などとなっている。



4 県政への関心度 — 「関心がある」人は64.5%

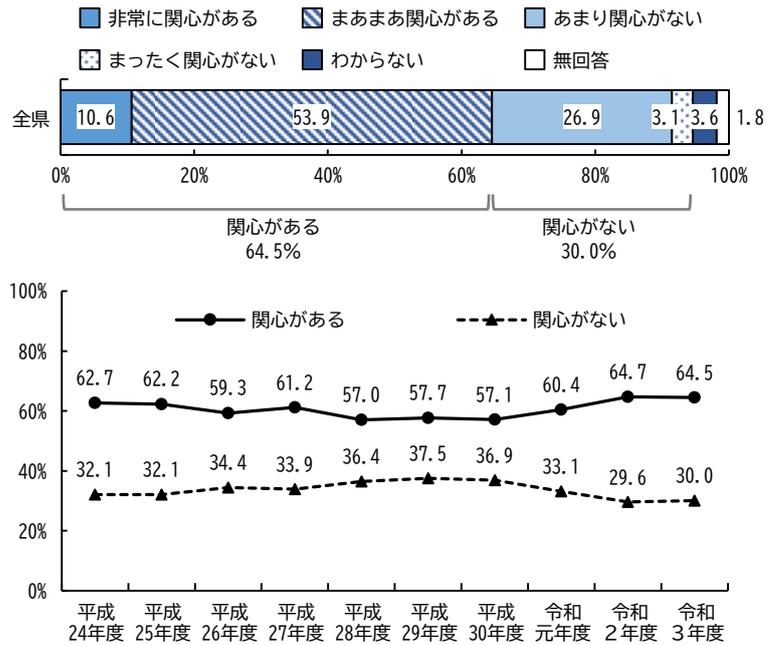
| | |
|------------|----------------------------------|
| Q4 | あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(〇は1つ) |
| SQ1 | 県の政治や行政に関心がある理由はなんですか。(〇は1つ) |
| SQ2 | 県の政治や行政に関心がない理由はなんですか。(〇は1つ) |

県政への関心の有無

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”は64.5%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた“関心がない”は30.0%となっている。

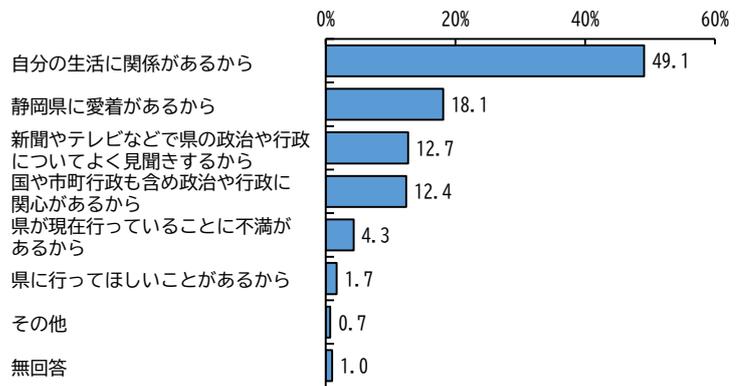
経年比較

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”の割合は毎年度6割前後で推移している。



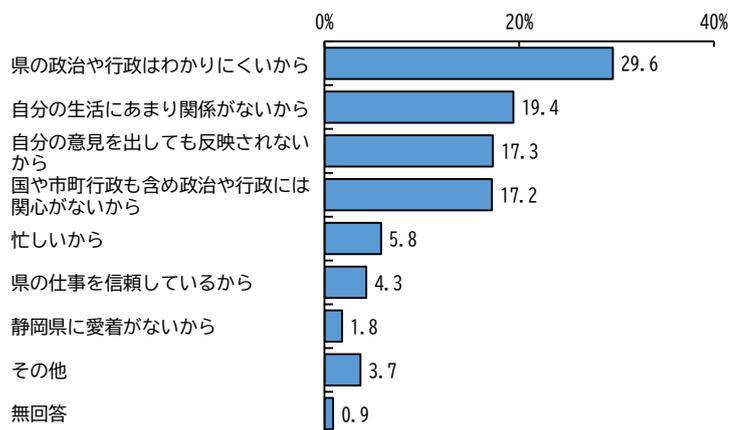
SQ1 県政に関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」(49.1%) が最も多く、以下「静岡県に愛着があるから」(18.1%)、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」(12.7%)、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」(12.4%)、「県が現在行っていることに不満があるから」(4.3%)、「県に行ってほしいことがあるから」(1.7%)、「その他」(0.7%)、「無回答」(1.0%) となっている。



SQ2 県政に関心がない理由

- 「県の政治や行政はわかりにくいから」(29.6%) が最も多く、以下「自分の生活にあまり関係がないから」(19.4%)、「自分の意見を出しても反映されないから」(17.3%)、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」(17.2%)、「忙しいから」(5.8%)、「県の仕事を信頼しているから」(4.3%)、「静岡県に愛着がないから」(1.8%)、「その他」(3.7%)、「無回答」(0.9%) となっている。

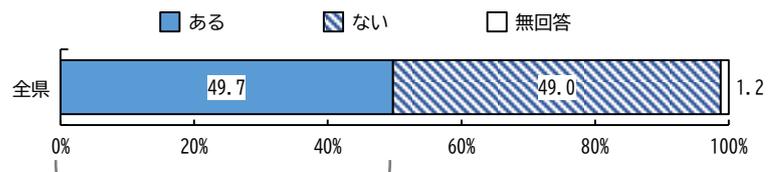


5 行政機関への意見や要望、不満 — 意見が「ある」人は49.7%

| | |
|-----|---|
| Q5 | あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ) |
| SQ1 | それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも) |
| SQ2 | その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いましたか。(〇は1つ) |
| SQ3 | それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ) |
| SQ4 | どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも) |
| SQ5 | 意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由はなんですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ) |
| SQ6 | どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ) |

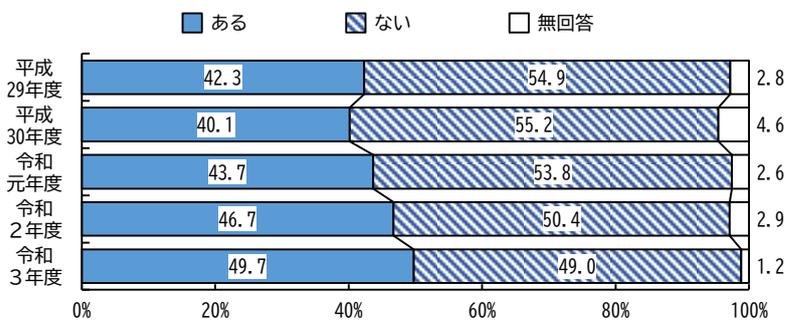
行政機関への意見や要望、不満

- 「意見等がある」と回答した人の割合は49.7%、「意見等がない」は49.0%となっており、大きな差はみられない。



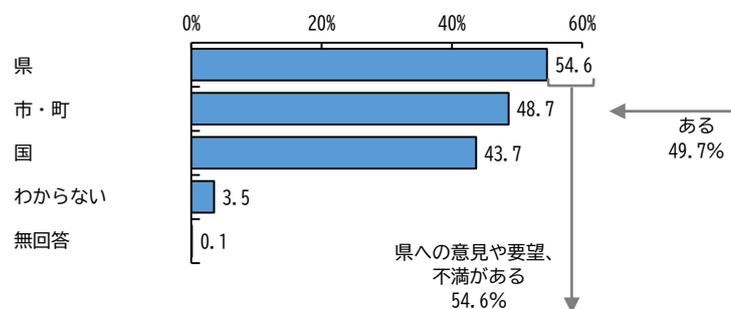
経年比較

- 「意見等がある」は毎年度4割台で推移しているが、今年度(49.7%)は過去5年で最も高くなっている。



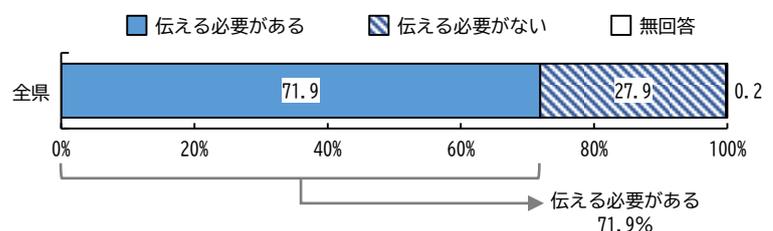
SQ1 担当行政機関

- 「県」(54.6%)が最も多く、以下「市・町」(48.7%)、「国」(43.7%)となっている。



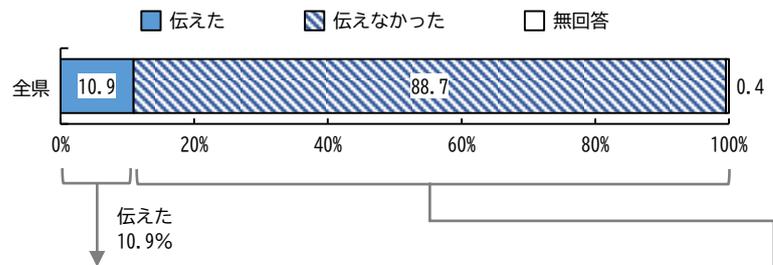
SQ2 伝達の必要性

- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は71.9%、「伝える必要がない」は27.9%となっている。



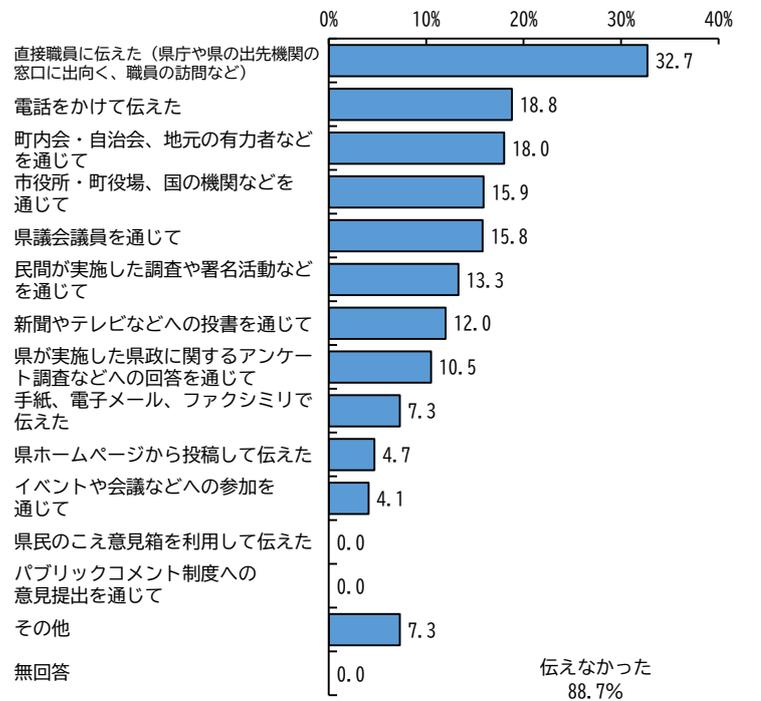
SQ3 伝達の有無

- 県に「伝えなかった」と回答した人の割合が88.7%と大半を占め、「伝えた」は10.9%にとどまっている。



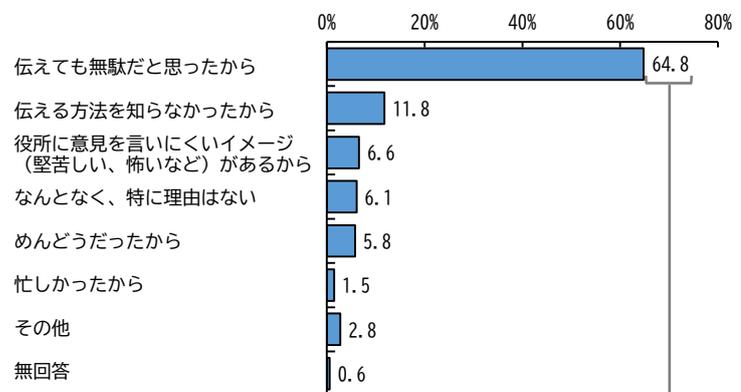
SQ4 伝達方法

- 「直接職員に伝えた（県庁や県の出先機関の窓口に出向く、職員の訪問など）」(32.7%)が最も多く、以下「電話をかけて伝えた」（18.8%）、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」（18.0%）、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」（15.9%）、「県議会議員を通じて」（15.8%）、「民間が実施した調査や署名活動などを通じて」（13.3%）、「新聞やテレビなどへの投書を通じて」（12.0%）、「県が実施した県政に関するアンケート調査などへの回答を通じて」（10.5%）、「手紙、電子メール、ファクシミリで伝えた」（7.3%）、「県ホームページから投稿して伝えた」（4.7%）、「イベントや会議などへの参加を通じて」（4.1%）、「県民のこえ意見箱を利用して伝えた」（0.0%）、「パブリックコメント制度への意見提出を通じて」（0.0%）、「その他」（7.3%）、「無回答」（0.0%）となっている。



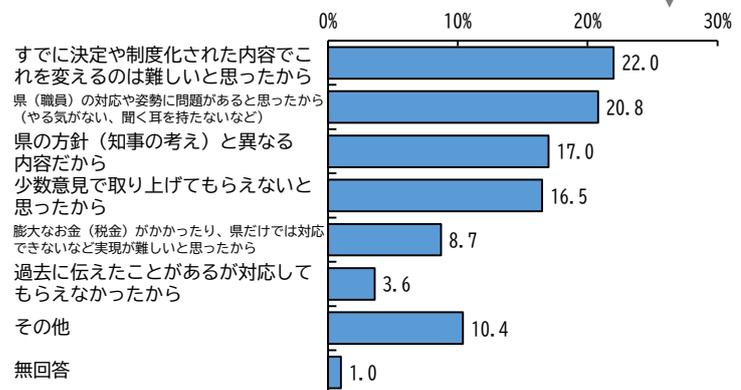
SQ5 伝達しなかった理由

- 「伝えても無駄だと思ったから」（64.8%）が最も多く、以下「伝える方法を知らなかったから」（11.8%）、「役所に意見を言いにくいイメージ（堅苦しい、怖いなど）があるから」（6.6%）、「なんとなく、特に理由はない」（6.1%）、「めんどろだったから」（5.8%）、「忙しかったから」（1.5%）、「その他」（2.8%）、「無回答」（0.6%）となっている。



SQ6 伝えても無駄だと思った理由

- 「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」（22.0%）が最も多く、以下「県（職員）の対応や姿勢に問題があると思ったから（やる気がない、聞く耳を持たないなど）」(20.8%)、「県の方針（知事の考え）と異なる内容だから」（17.0%）、「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」（16.5%）、「膨大なお金（税金）がかかったり、県だけでは対応できないなど実現が難しいと思ったから」（8.7%）、「過去に伝えたことがあるが対応してもらえなかったから」（3.6%）、「その他」（10.4%）、「無回答」（1.0%）となっている。

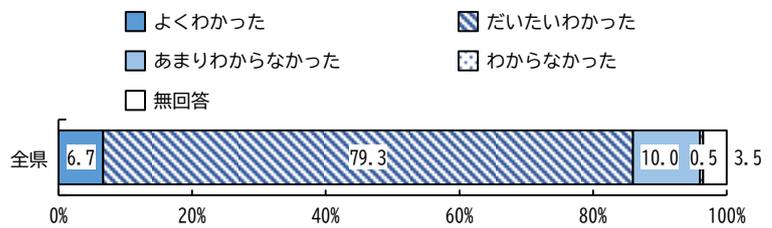
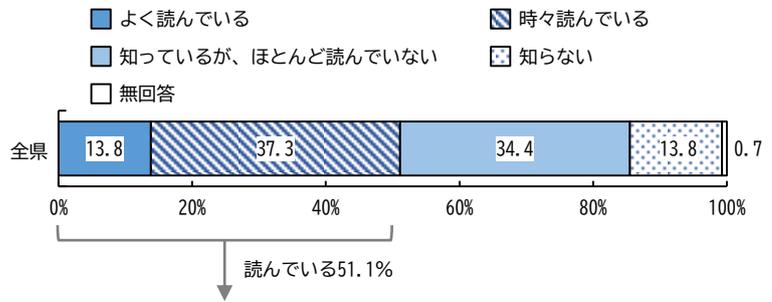


6 広報媒体の浸透度 — 「県民だより」を「読んでいる」人は51.1%

| | |
|-----------|--|
| Q6 | あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。 |
| SQ | 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ) |

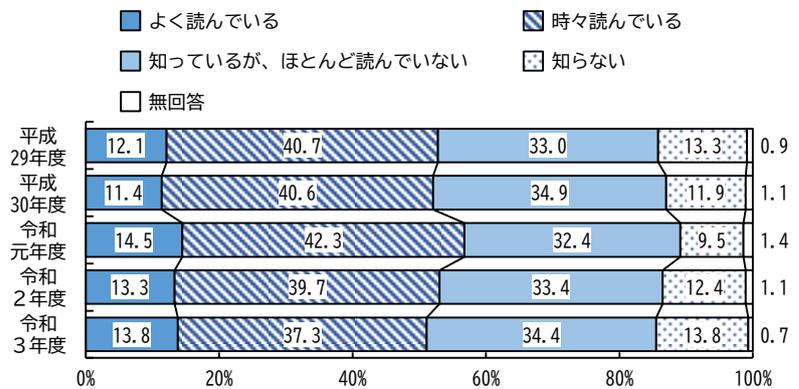
県民だより

- 「よく読んでいる」(13.8%)と「時々読んでいる」(37.3%)を合わせた51.1%は県民だよりを読んでいる。
- 「よくわかった」(6.7%)と「だいたいわかった」(79.3%)を合わせた86.0%の人がわかりやすかったと回答している。



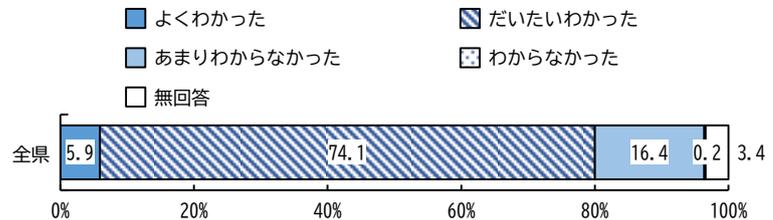
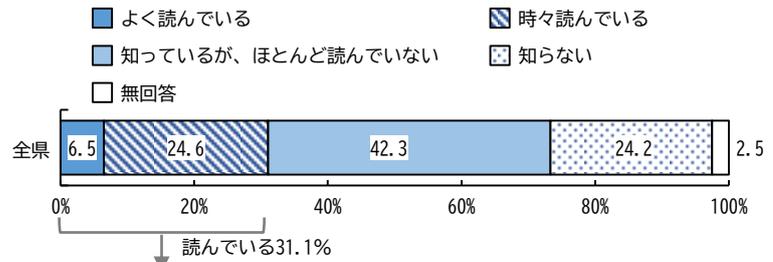
経年比較

- 読んでいる割合は、令和元年度以降減少傾向にあり、今年度は前年度より1.9ポイント減少した。



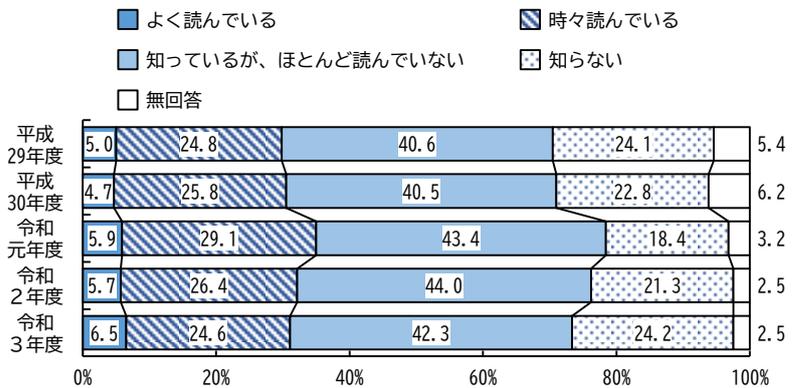
静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」(6.5%)と「時々読んでいる」(24.6%)を合わせた31.1%は静岡県議会だよりを読んでいる。
- 「よくわかった」(5.9%)と「だいたいわかった」(74.1%)を合わせた80.0%の人がわかりやすかったと回答している。



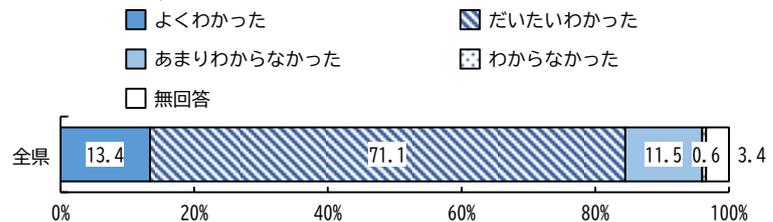
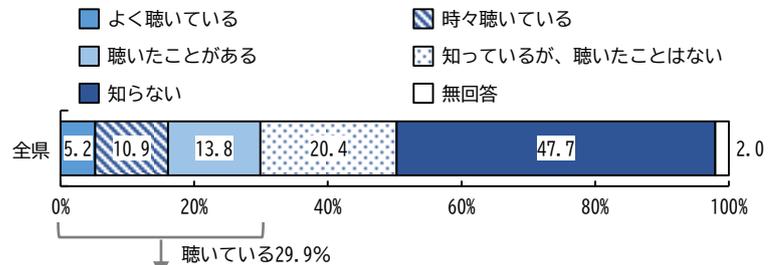
経年比較

- 読んでいる割合は、今年度は前年度に比べ1.0ポイント減少した。
- 読んでいる割合に「知っているが、ほとんど読んでいない」を合わせた認知している割合は、毎年度7割台で推移している。



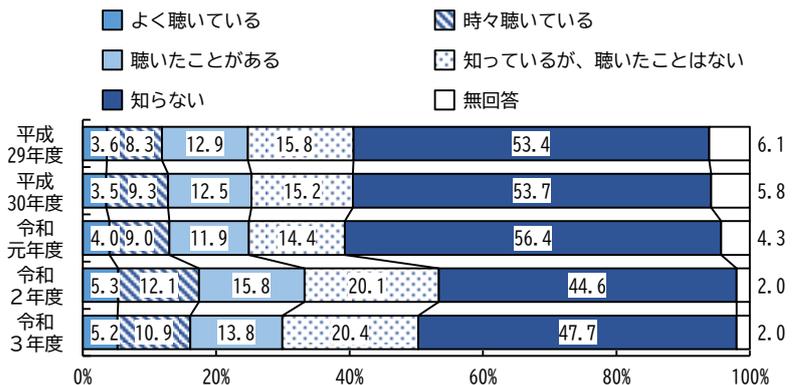
ラジオ広報

- 「よく聴いている」(5.2%)と「時々聴いている」(10.9%)、「聴いたことがある」(13.8%)を合わせた29.9%はラジオ広報を聴いている。
- 「よくわかった」(13.4%)と「だいたいわかった」(71.1%)を合わせた84.5%の人がわかりやすかったと回答している。



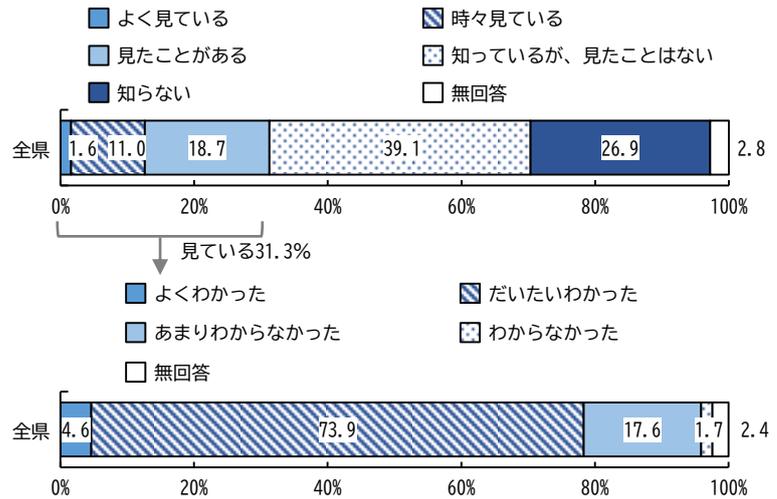
経年比較

- 聴いている割合は、今年度(29.9%)は前年度(33.2%)と比較して3.3ポイント下回り、令和元年度以前の水準となっている。



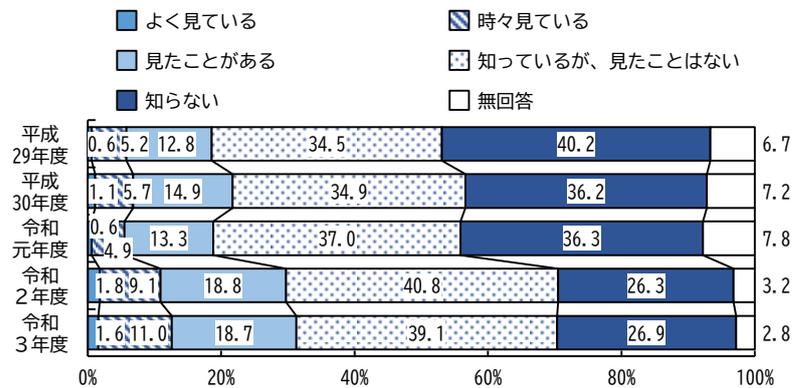
県のホームページ

- 「よく見ている」(1.6%)、「時々見ている」(11.0%)、「見たことがある」(18.7%)を合わせた31.3%は県のホームページを見ている。
- 「よくわかった」(4.6%)と「だいたいわかった」(73.9%)を合わせた78.5%の人がわかりやすかったと回答している。



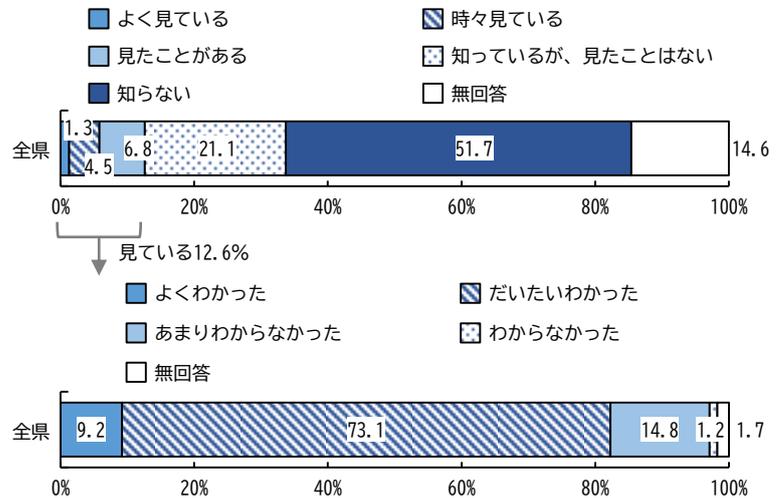
経年比較

- 見ている割合は、前年度(29.7%)から1.6ポイント上回っており、過去5年で最も高くなっている。



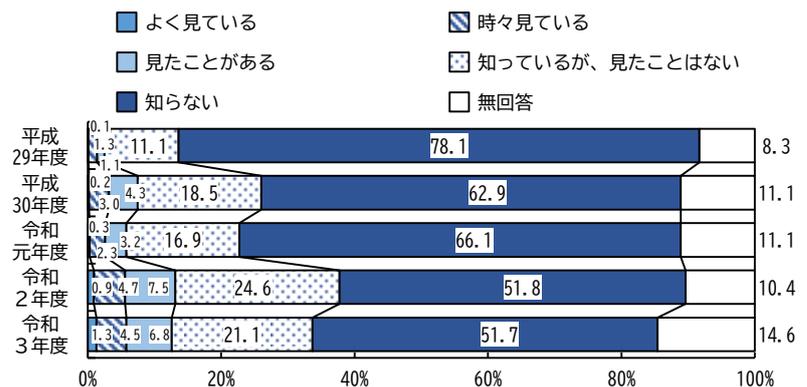
SNS

- 「よく見ている」(1.3%)、「時々見ている」(4.5%)、「見たことがある」(6.8%)を合わせた12.6%はSNSを見ている。
- 「よくわかった」(9.2%)と「だいたいわかった」(73.1%)を合わせた82.3%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

- 見ている割合は、今年度(12.6%)は前年度(13.1%)と比較して0.5ポイント下回っている。



7 日常の課題や生活における意識

Q7

静岡県では、「有徳の人」づくりを進めています。あなたは、ご自身が日頃から「有徳の人」としての行動ができていますか。(〇は1つ)

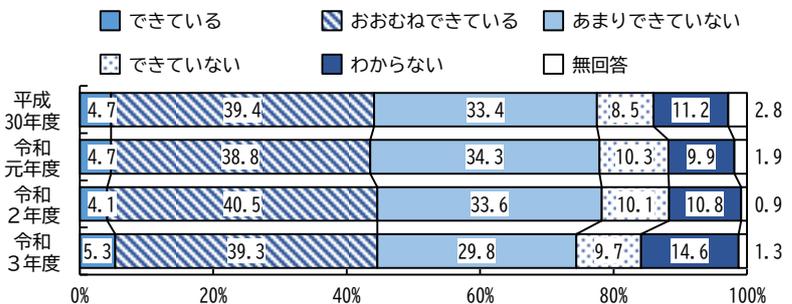
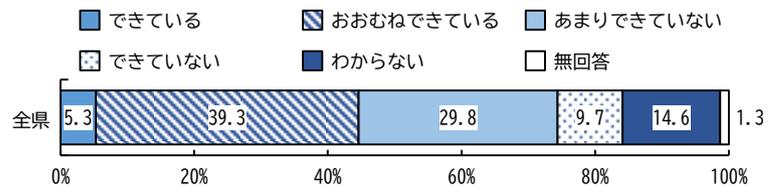
※「有徳の人」…「個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し、行動する人」としています。

有徳の人づくり

- 「できている」(5.3%)と「おおむねできている」(39.3%)を合わせた44.6%はできていると回答し、「あまりできていない」(29.8%)と「できていない」(9.7%)を合わせた39.5%はできていないと回答している。

経年比較

- 平成30年度以降の推移で、「有徳の人」として行動できていると思う人の割合に大きな差はみられない。



Q8

あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(〇は1つ)

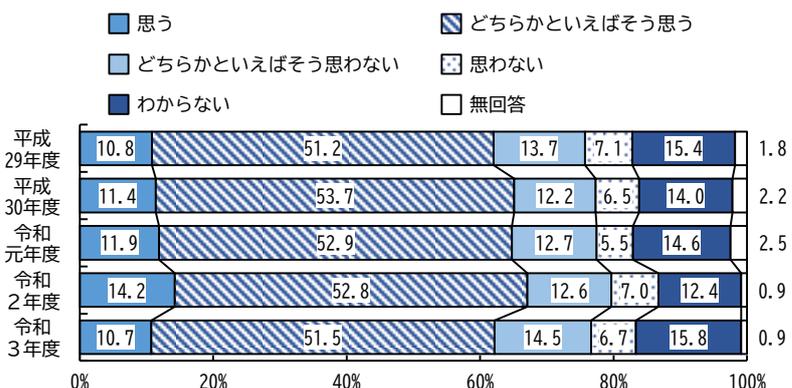
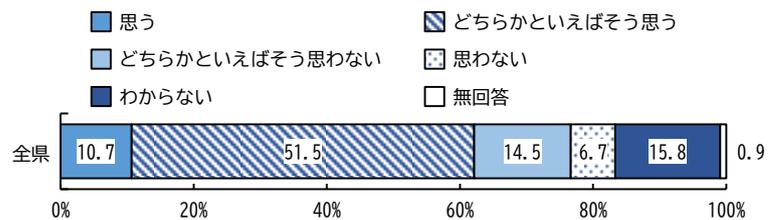
※「地域の絆や支え合い」…地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む、幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

地域コミュニティの活性化

- 「思う」(10.7%)と「どちらかといえばそう思う」(51.5%)を合わせた62.2%は形成されていると思うと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(14.5%)と「思わない」(6.7%)を合わせた21.2%は形成されていると思わないと回答している。

経年比較

- 形成されていると思う人の割合は、今年度(62.2%)は前年度(67.0%)と比較して4.8ポイント下回っている。

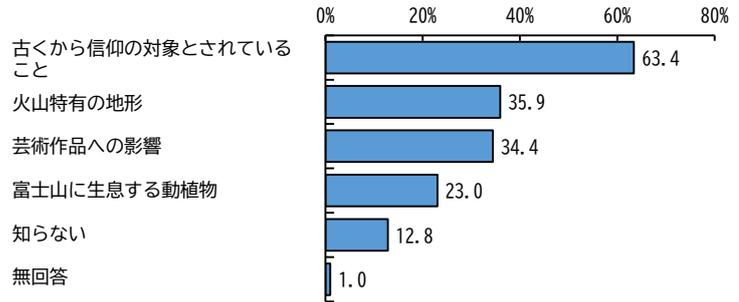


Q9

富士山は世界遺産として大きく2つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。(〇は2つ)

富士山の世界遺産としての価値

- 「古くから信仰の対象とされていること」(63.4%)が最も多く、以下「火山特有の地形」(35.9%)、「芸術作品への影響」(34.4%)などとなっている。
- 「知らない」は12.8%となっている。

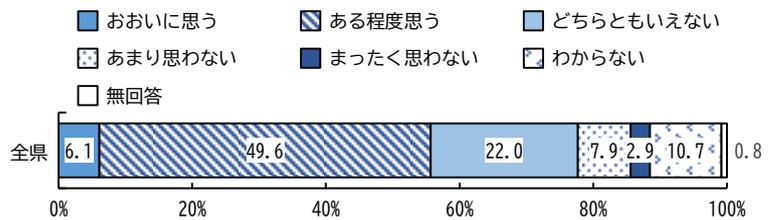


Q10

あなたがお住まいのまちは、子どもを産み育てやすいところだと思いますか。(〇は1つ)

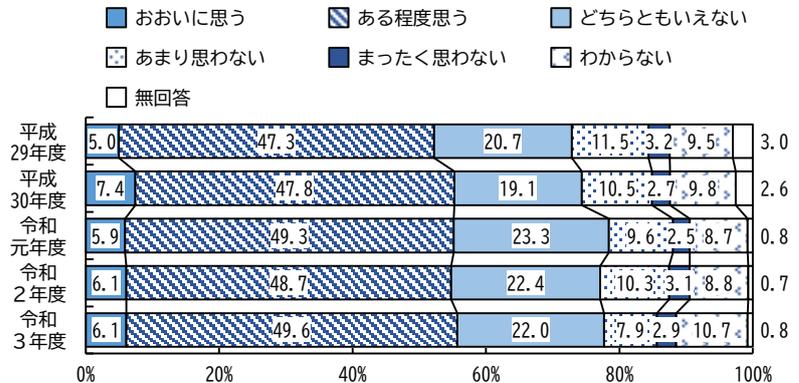
子どもの産み育てやすさ

- 「おおいに思う」(6.1%)と「ある程度思う」(49.6%)を合わせた55.7%は子どもを産み育てやすいところだと思うと回答し、「あまり思わない」(7.9%)と「まったく思わない」(2.9%)を合わせた10.8%は子どもを産み育てやすいところだとは思わないと回答している。



経年比較

- 子どもを産み育てやすいところだと思う人の割合は毎年度5割台で推移している。



Q11

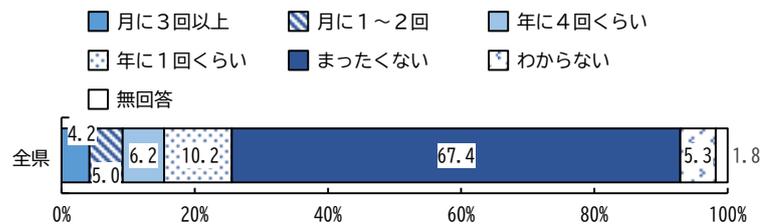
あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。(〇は1つ)

「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動
- ・学校支援活動や地域における活動（授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ など）

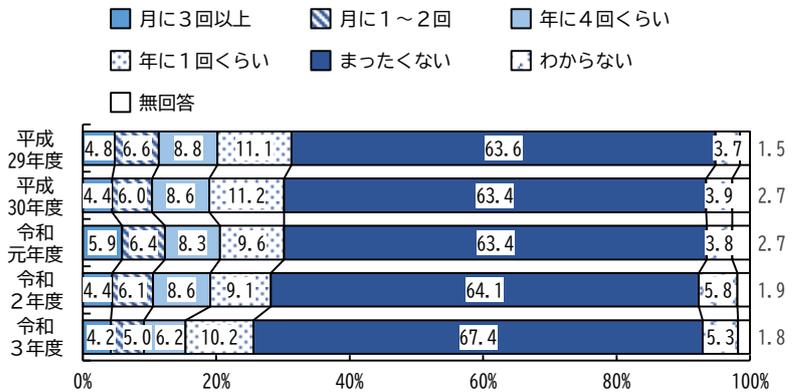
子どもをはぐくむ活動

●「月に3回以上」(4.2%)、「月に1～2回」(5.0%)、「年に4回くらい」(6.2%)、「年に1回くらい」(10.2%)を合わせた25.6%は子どもをはぐくむ活動をしていると回答しており、「まったくくない」(67.4%)の半数以下となっている。



経年比較

●子どもをはぐくむ活動をしている人の割合は、減少傾向にあり、今年度(25.6%)は前年度(28.2%)を2.6ポイント下回っている。



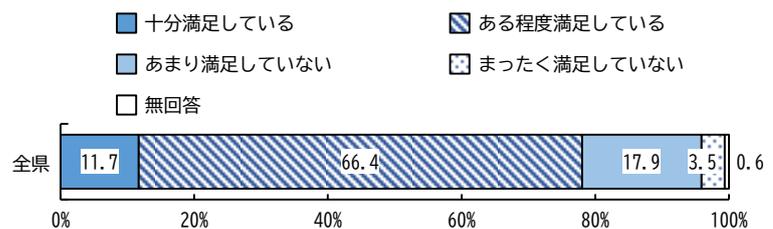
Q12

あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

※「住宅のまわりの環境」…敷地や近隣だけでなく、歩いて回れる程度の地域の居住環境を含みます。

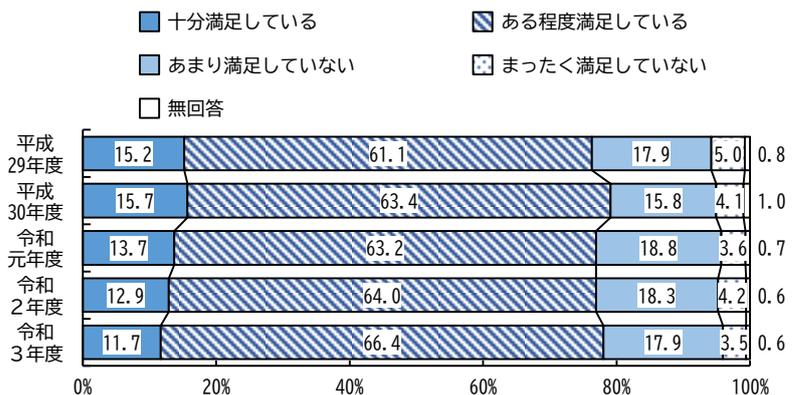
住宅・住環境の満足度

●「十分満足している」(11.7%)と「ある程度満足している」(66.4%)を合わせた78.1%は満足していると回答している。



経年比較

●満足している割合は毎年度7割台で推移している。

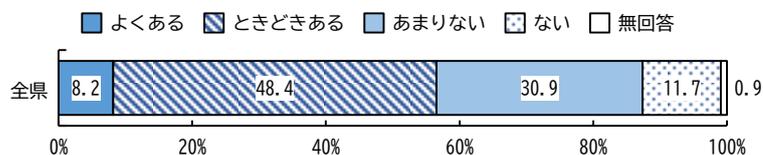


Q13

あなたは、商品・サービスを選択する際に、環境保全、被災地の支援、地産地消、障がいがある人への支援、開発途上国の労働者の生活改善など、社会貢献につながるものを意識的に選択することがありますか。(〇は1つ)

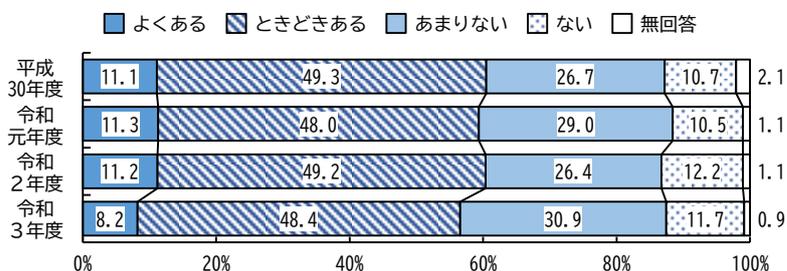
消費者市民社会

- 「よくある」(8.2%)と「ときどきある」(48.4%)を合わせた56.6%は社会貢献につながるものを意識的に選択することがあると回答し、「あまりない」(30.9%)と「ない」(11.7%)を合わせた42.6%は選択することがないと回答している。



経年比較

- 選択することがある人の割合は毎年度6割前後で推移しているが、今年度(56.6%)は過去4年で最も低くなっている。



Q14

あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

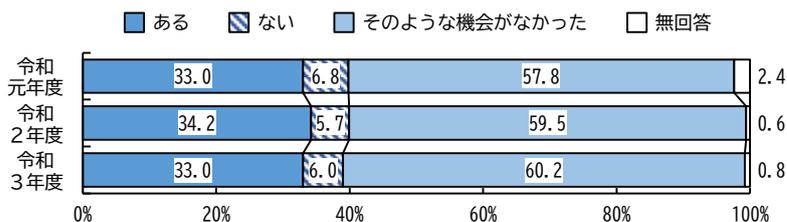
心のユニバーサルデザインの実践

- 「ある」と回答した割合は33.0%で、「ない」と回答した割合は6.0%となっている。
- 「そのような機会がなかった」は60.2%となっている。



経年比較

- 心のユニバーサルデザインを実践している人の割合は、毎年度3割台で推移している。



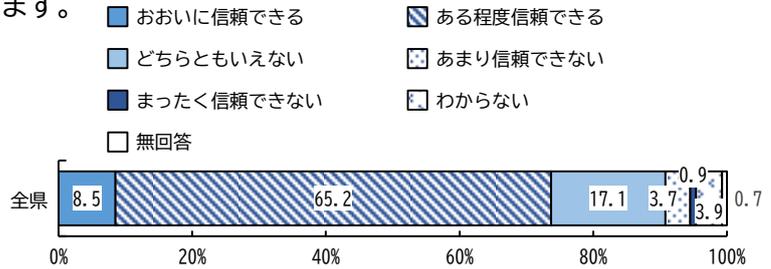
Q15

あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。(〇は1つ)

※「食品の安全性」…農産物など輸入食品の安全性や、遺伝子組換え食品・食品添加物・農薬などの安全性、食品表示自体の信頼性などをいいます。

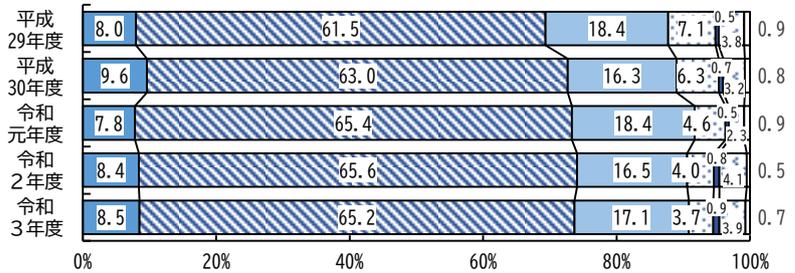
食品の安全性

●「おいに信頼できる」(8.5%)と「ある程度信頼できる」(65.2%)を合わせた73.7%は信頼できると回答し、「あまり信頼できない」(3.7%)と「まったく信頼できない」(0.9%)を合わせた4.6%は信頼できないと回答している。



経年比較

●信頼できる人の割合は、平成30年度から7割台で推移している。



Q16

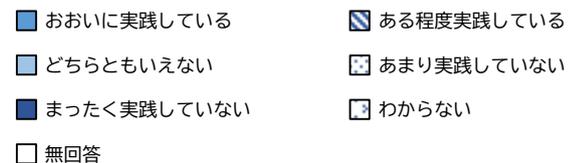
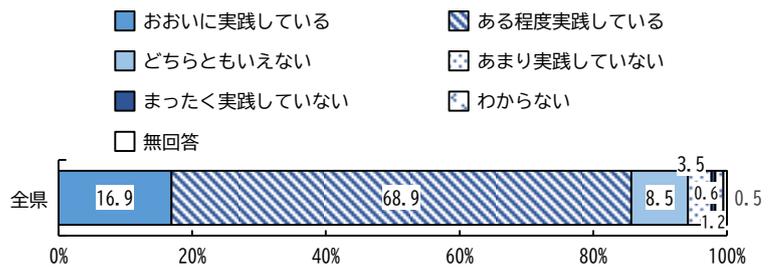
あなたは、環境への配慮を実践していますか。(〇は1つ)

「環境への配慮」の例

節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

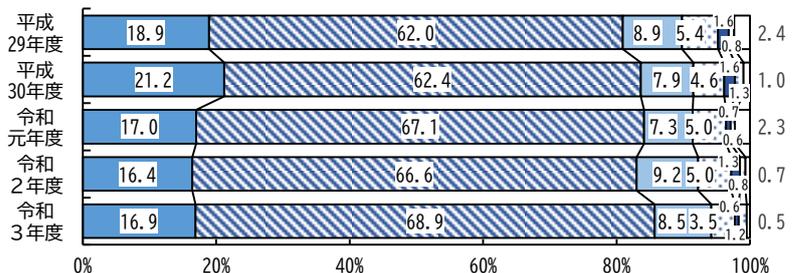
環境保全活動の実践

●「おいに実践している」(16.9%)と「ある程度実践している」(68.9%)を合わせた85.8%は実践していると回答し、「あまり実践していない」(3.5%)と「まったく実践していない」(0.6%)を合わせた4.1%は実践していないと回答している。



経年比較

●実践している人の割合は毎年度8割台で推移しているが、今年度(85.8%)は過去5年で最も高くなっている。

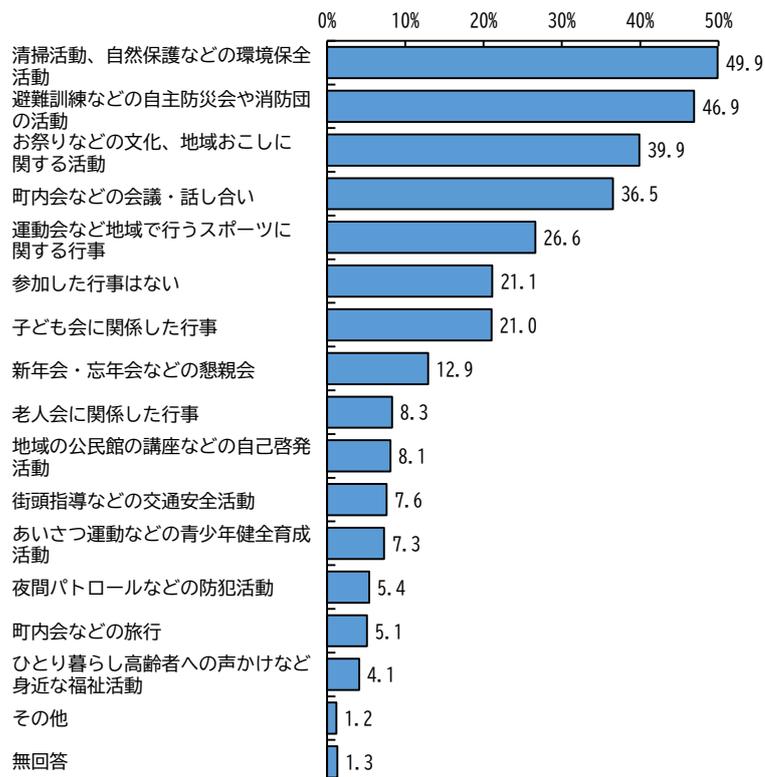


Q17

あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。
(〇はいくつでも)

環境保全活動の実践

- 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」(49.9%)が最も多く、以下「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(46.9%)、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(39.9%)などとなっている。
- 「参加した行事はない」は21.1%となっている。



Q18

あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。(〇は1つ)

※「文化・芸術」…芸術（音楽、映画、美術、演劇、舞踊等）、芸能（漫才、落語、歌唱、歌舞伎、能、講談、浪曲等）、文芸（短歌、俳句、詩、小説等）、生活文化（囲碁、将棋、お茶、生け花、手芸等）、お祭りへの参加や見物、文化財（建造物、遺跡、古文書等）を意味しています。

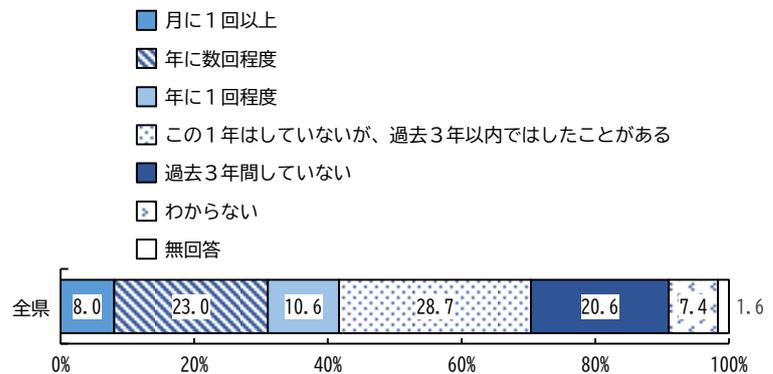
※「鑑賞」…映画館や美術館、博物館、またホールや劇場などの会場で、作品やコンサートを見たり聞いたりした経験を意味しています。

※「活動」…個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

※「鑑賞」と「活動」のどちらか一方でも行えば、「経験した」とします。

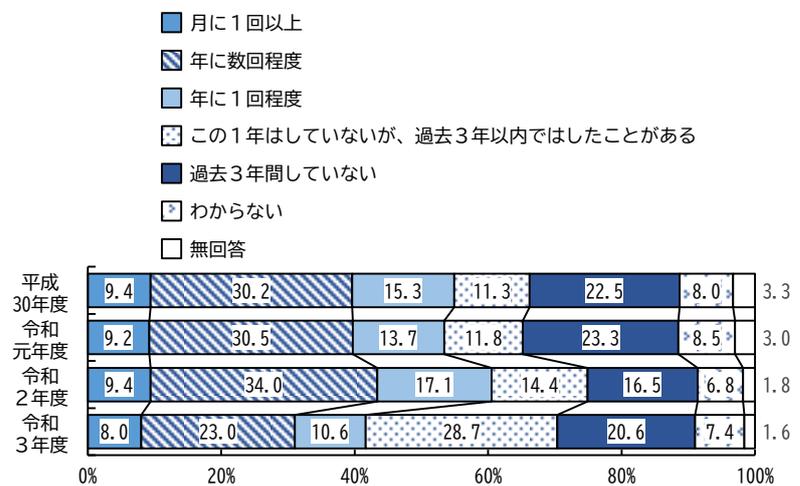
文化・芸術の鑑賞又は活動

- 「月に1回以上」(8.0%)、「年に数回程度」(23.0%)、「年に1回程度」(10.6%)を合わせた41.6%はこの1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をしている。



経年比較

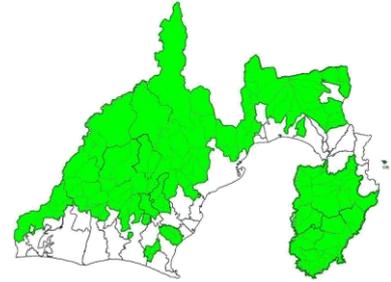
- 鑑賞又は活動をした人の割合は、前年度(60.5%)から18.9ポイント下回っており、過去4年で最も低くなっている。



Q19

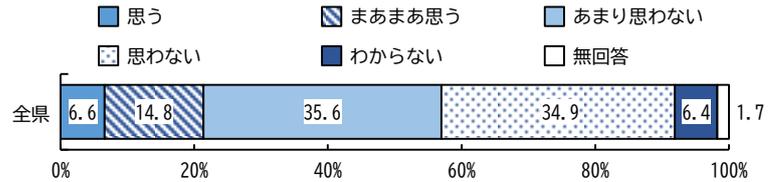
あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)(○は1つ)

※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、
農林業を主な産業としている地域のことをいいます。
※県内の中山間地域のイメージは、右図の網掛け部分です。



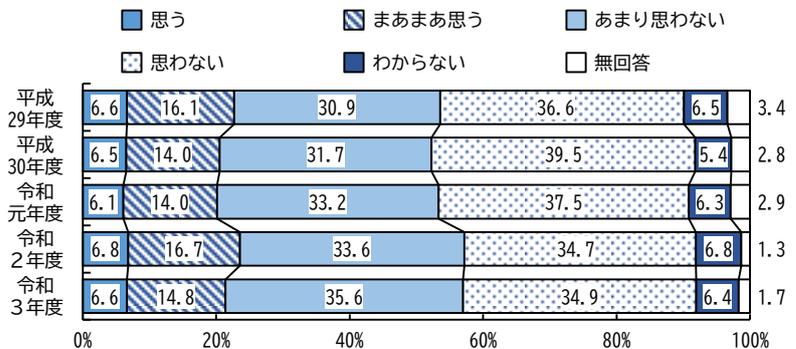
中山間地域での生活意向

●「思う」(6.6%)と「まあまあ思う」(14.8%)を合わせた21.4%は住みたいと思うと回答し、「あまり思わない」(35.6%)と「思わない」(34.9%)を合わせた70.5%は住みたいと思わないと回答している。



経年比較

●住みたいと思う人の割合は、毎年度2割台で推移している。

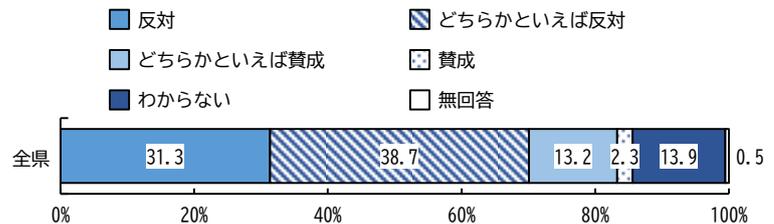


Q20

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(○は1つ)

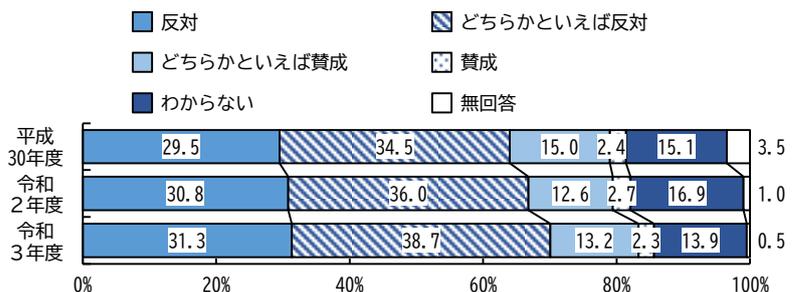
男女共同参画に関する意識

●「反対」(31.3%)と「どちらかといえば反対」(38.7%)を合わせた70.0%は反対と回答し、「どちらかといえば賛成」(13.2%)と「賛成」(2.3%)を合わせた15.5%は賛成と回答している。



経年比較

●「反対」または「どちらかといえば反対」と思う人の割合は、今年度は70.0%と、前年度(66.8%)を3.2ポイント上回った。



Q21

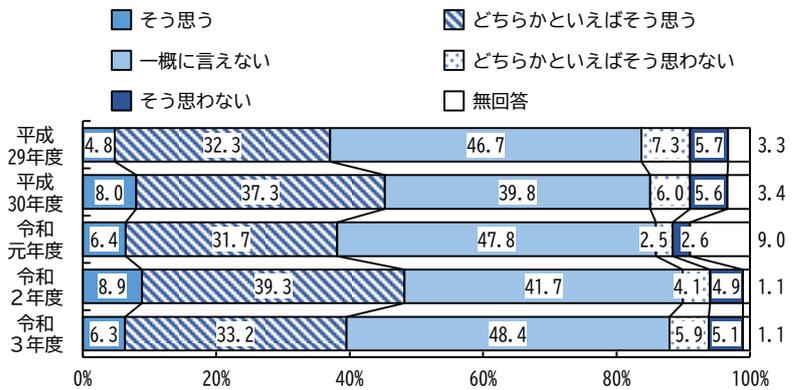
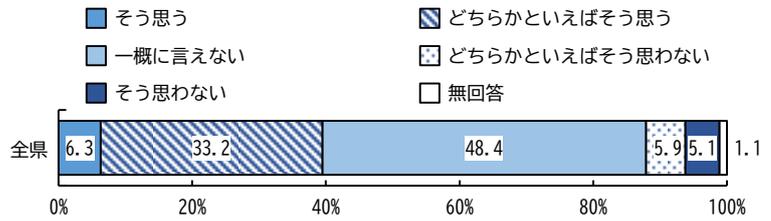
あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」と感じますか。(〇は1つ)

人権尊重の意識

- 「そう思う」(6.3%)と「どちらかといえばそう思う」(33.2%)を合わせた39.5%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思うと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(5.9%)と「そう思わない」(5.1%)を合わせた11.0%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思わないと回答している。

経年比較

- 人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思う人の割合は、今年度は39.5%と、前年度(48.2%)を8.7ポイント下回っている。



※令和元年度は、人権問題に関する県民意識調査(地域福祉課人権同和室実施)の結果を、参考値としてグラフに掲載している。

※令和2年度以前については、『今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じますか」という設問に対する結果を、グラフに掲載している。

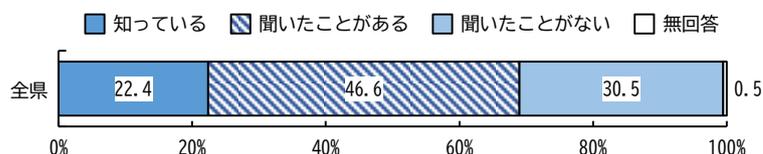
Q22

「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(〇は1つ)

※「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は、生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

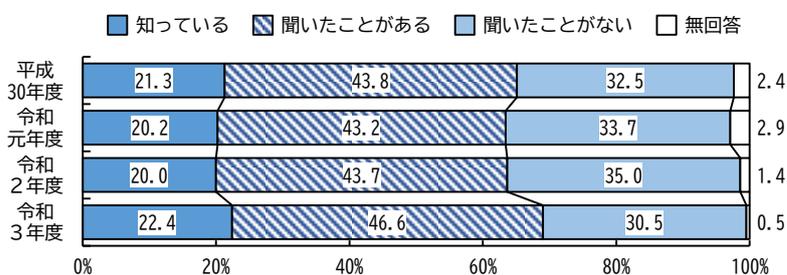
生物多様性への理解

- 「知っている」(22.4%)と「聞いたことがある」(46.6%)を合わせた69.0%は生物多様性について認知している。



経年比較

- 「生物多様性」という言葉や意味を知っている人の割合は今年度は22.4%と、前年度(20.0%)を2.4ポイント上回っている。
- 認知している人の割合は今年度は69.0%と、前年度(63.7%)を5.3ポイント上回っている。

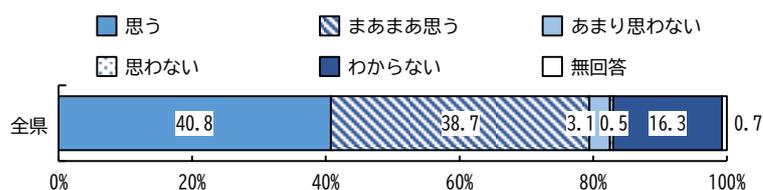


Q23

あなたは「生物多様性」を大切にしていきたいと思いますか。(〇は1つ)

生物多様性への思い

- 「思う」(40.8%)と「まあまあ思う」(38.7%)を合わせた79.5%は大切にしていきたいと思うと回答している。



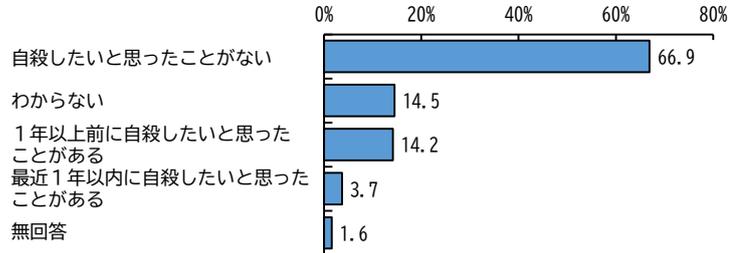
8 自殺に対する意識

Q24

あなたは、これまでの人生の中で本気で自殺をしたいと考えたことがありますか。
(2と3の両方○は可)

希死念慮

- 「自殺したいと思ったことがない」(66.9%)が最も多く、以下、「1年以上前に自殺したいと思ったことがある」(14.2%)、「最近1年以内に自殺したいと思ったことがある」(3.7%)となっている。
- 「わからない」は14.5%となっている。

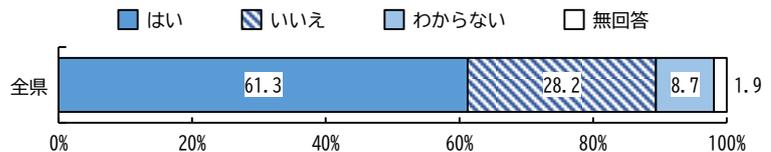


Q25

あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたことがありますか。(○は1つ)

相談経験の有無

- 「はい」(61.3%)が最も多く、以下「いいえ」(28.2%)、「わからない」(8.7%)となっている。

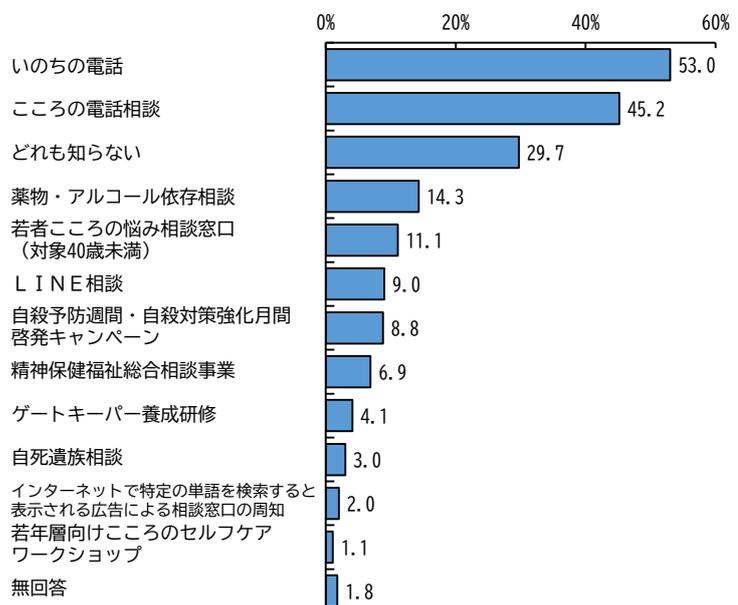


Q26

静岡県で実施している自殺対策を知っていますか。(○はいくつでも)

自殺対策の認知

- 「いのちの電話」(53.0%)が最も多く、以下「こころの電話相談」(45.2%)、「薬物・アルコール依存相談」(14.3%)などとなっている。
- 「どれも知らない」が29.7%となっている。

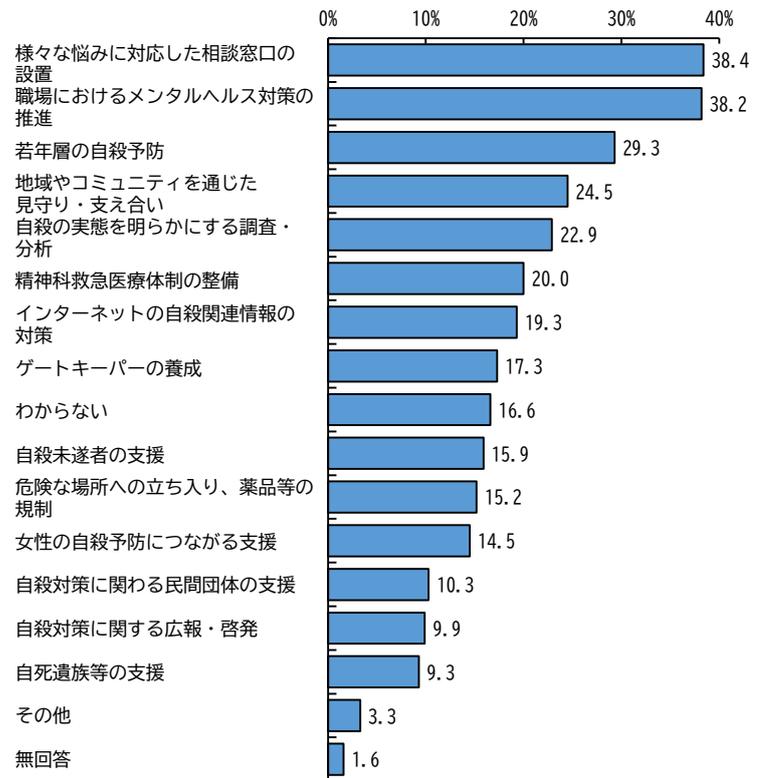


Q27

どのような自殺対策が今後求められると思いますか。(〇はいくつでも)

求められる自殺対策

- 「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(38.4%) が最も多く、以下「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(38.2%)、「若年層の自殺予防」(29.3%) などとなっている。



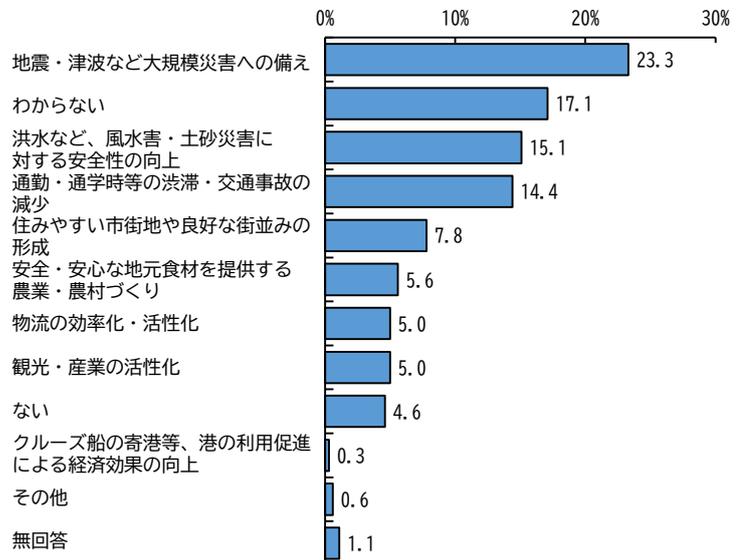
9 静岡県の社会資本整備に関する意識

Q28

道路、河川・砂防、港湾、都市など社会資本の整備は、地域の安全・安心な暮らしを支えています。社会資本整備の中で、あなたが、特に役に立っていると思うものは何ですか。(〇は1つ)

資本整備で役に立っているもの

- 「地震・津波など大規模災害への備え」(23.3%)が最も多く、「洪水など、風水害・土砂災害に対する安全性の向上」(15.1%)、「通勤・通学時等の渋滞・交通事故の減少」(14.4%)などとなっている。
- 「わからない」が17.1%となっている。

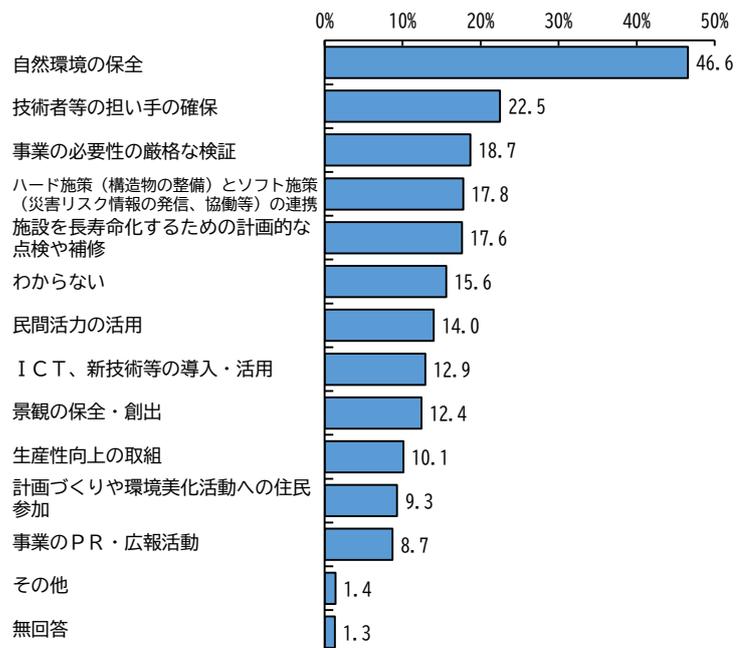


Q29

県が社会資本整備を進めるにあたり、あなたが特に必要だと思う取組はなんですか。(〇は3つまで)

必要だと思う資本整備の取組

- 「自然環境の保全」(46.6%)が最も多く、以下「技術者等の担い手の確保」(22.5%)、「事業の必要性の厳格な検証」(18.7%)などとなっている。

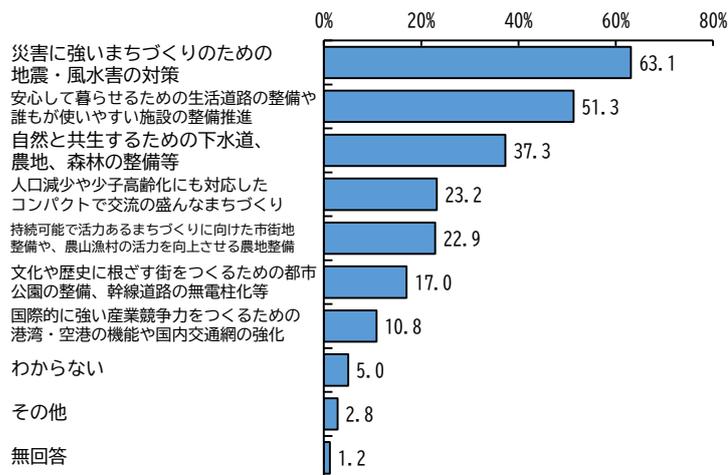


Q30

より良い地域づくりのため、どのようなことに県が投資することを期待しますか。
(〇は3つまで)

期待する県の投資

- 「災害に強いまちづくりのための地震・風水害の対策」(63.1%)が最も多く、以下「安心して暮らせるための生活道路の整備や誰もが使いやすい施設の整備推進」(51.3%)、「自然と共生するための下水道、農地、森林の整備等」(37.3%)などとなっている。

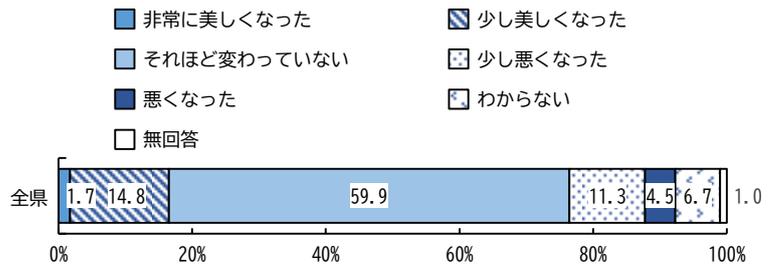


10 景観に関する意識

| | |
|------------|---|
| Q31 | あなたの住む地域の景観は、5年前と比べてどのように変化しましたか。 (○は1つ) |
| SQ | あなたの住む地域の景観が、5年前と比べて悪くなったと思う理由はなんですか。 (○は3つまで) |

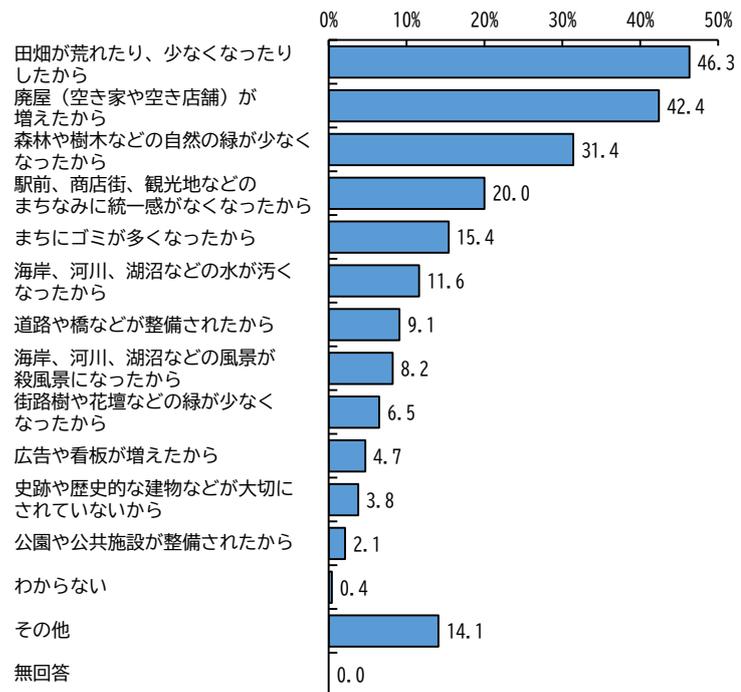
5年前と比べた地域の景観の変化

- 「非常に美しくなった」(1.7%)と「少し美しくなった」(14.8%)を合わせた16.5%は美しくなったと回答し、「少し悪くなった」(11.3%)と「悪くなった」(4.5%)を合わせた15.8%は悪くなったと回答している。



景観が悪くなったと思う理由

- 「田畑が荒れたり、少なくなったりしたから」(46.3%)が最も多く、以下「廃屋(空き家や空き店舗)が増えたから」(42.4%)、「森林や樹木などの自然の緑が少なくなったから」(31.4%)などとなっている。

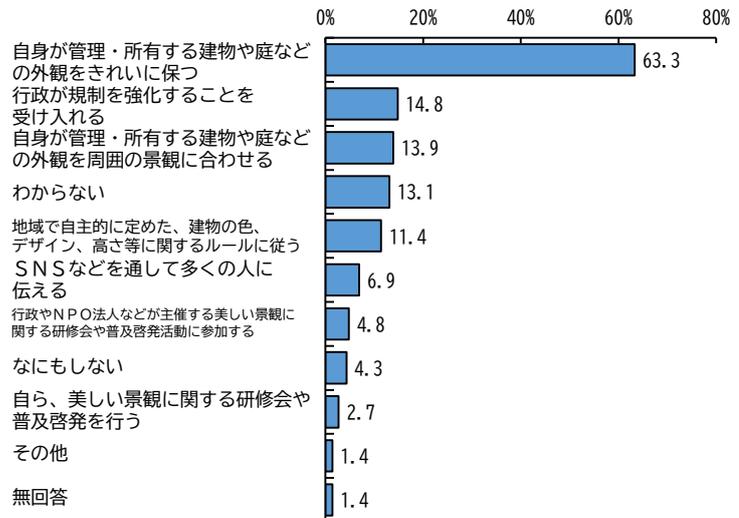


Q32

あなたの住む地域の美しい景観を、創り・守り・育てていくために、あなたは、どのような協力ならしてもいいと思いますか。(〇は2つまで)

景観保全のためにできる協力

- 「自身が管理・所有する建物や庭などの外観をきれいに保つ」(63.3%) が最も多く、以下「行政が規制を強化することを受け入れる」(14.8%)、「自身が管理・所有する建物や庭などの外観を周囲の景観に合わせる」(13.9%) などとなっている。

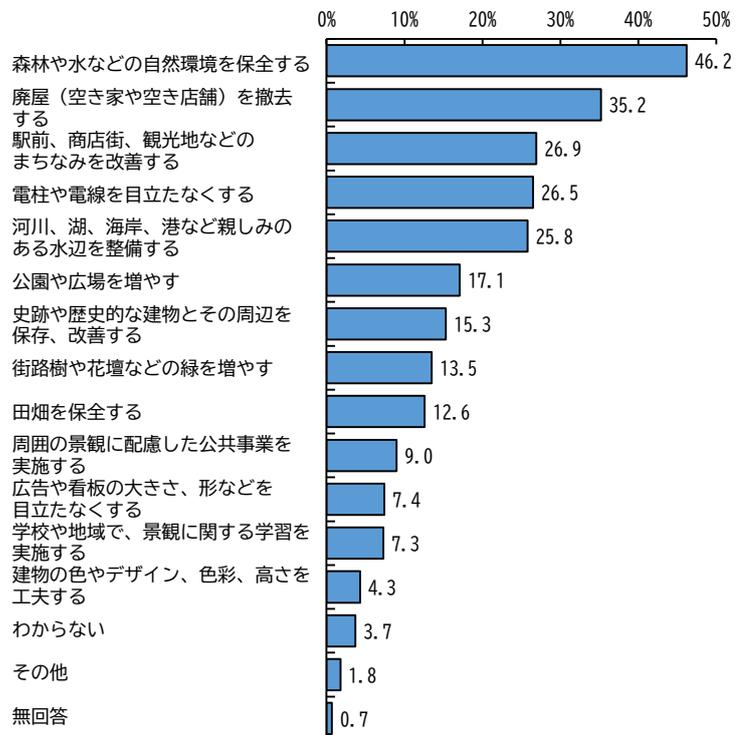


Q33

あなたは、静岡県の景観をより良くするためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

必要な景観をより良くする取組

- 「森林や水などの自然環境を保全する」(46.2%) が最も多く、以下「廃屋(空き家や空き店舗)を撤去する」(35.2%)、「駅前、商店街、観光地などのまちなみを改善する」(26.9%) などとなっている。



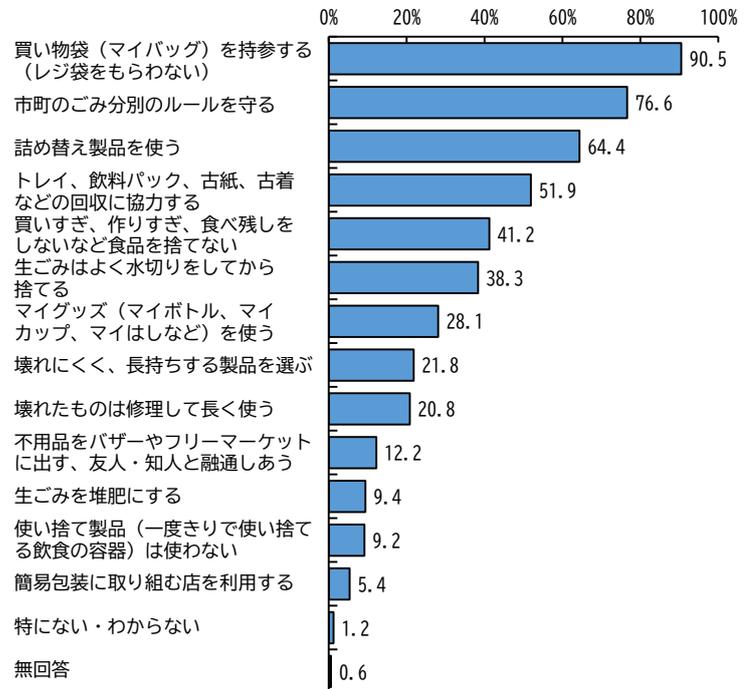
11 循環型社会形成に関する意識

Q34

ごみ削減やリサイクルのために、行っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

ごみ削減やリサイクルの実施状況

- 「買い物袋(マイバッグ)を持参する(レジ袋をもらわない)」(90.5%)が最も多く、以下「市町のごみ分別のルールを守る」(76.6%)、「詰め替え製品を使う」(64.4%)などとなっている。



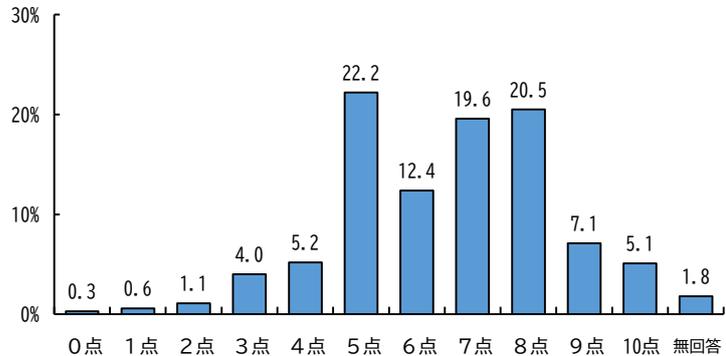
12 県民幸福度に関する意識

Q35

あなたは現在、どの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいですか。(〇は1つ)

幸福度

- 「5点」(22.2%)が最も多く、以下「8点」(20.5%)、「7点」(19.6%)などとなっている。
- 平均は6.5点となっている。

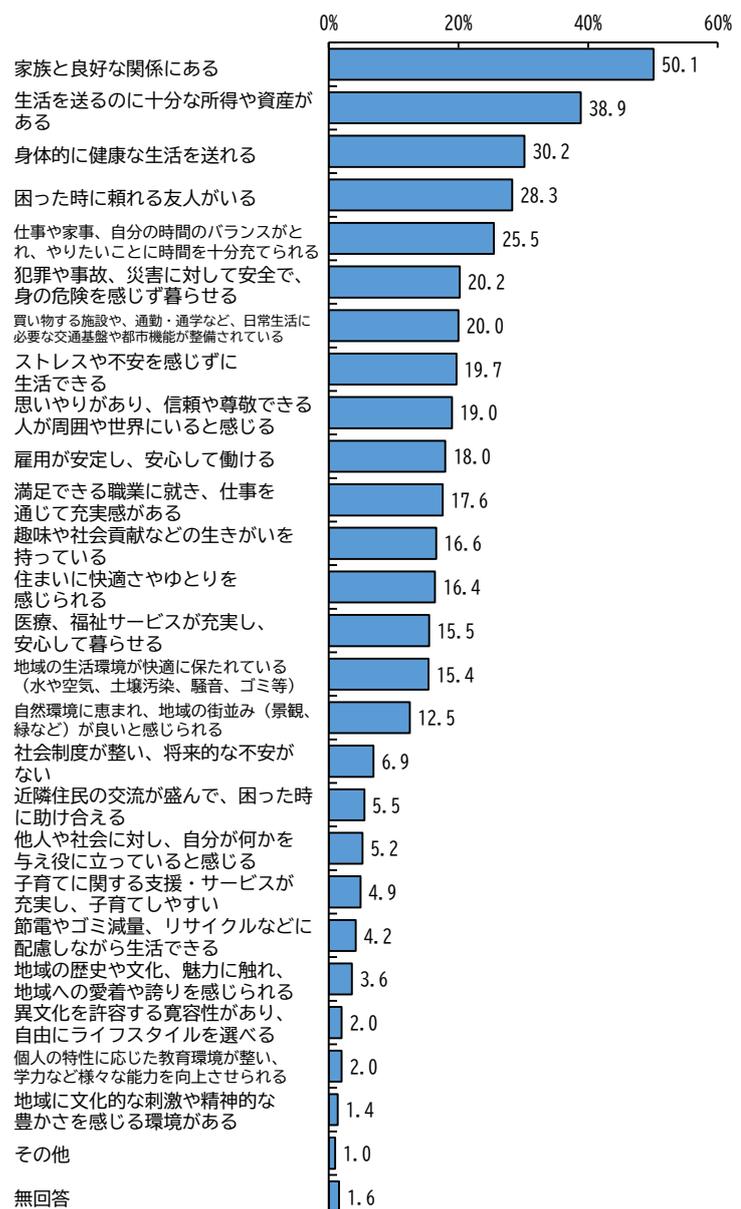


Q36

あなたがどの程度幸せかを判断する上で、重視した項目はなんですか。(〇は5つまで)

重視した項目

- 「家族と良好な関係にある」(50.1%)が最も多く、以下「生活を送るのに十分な所得や資産がある」(38.9%)、「身体的に健康な生活を送れる」(30.2%)などとなっている。

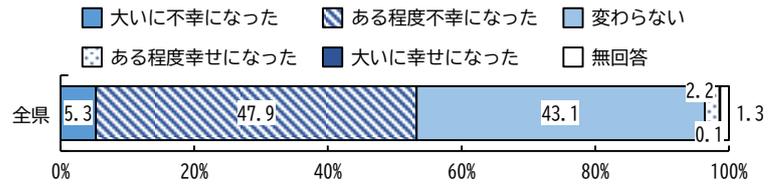


13 コロナ禍での幸福感の変化

| | |
|------------|---|
| Q37 | 新型コロナウイルス感染症の拡大（コロナ禍）で、あなたの幸福感に変化はありましたか。（○は1つ） |
| SQ | Q37を選んだ理由はなんですか。（○はいくつでも） |

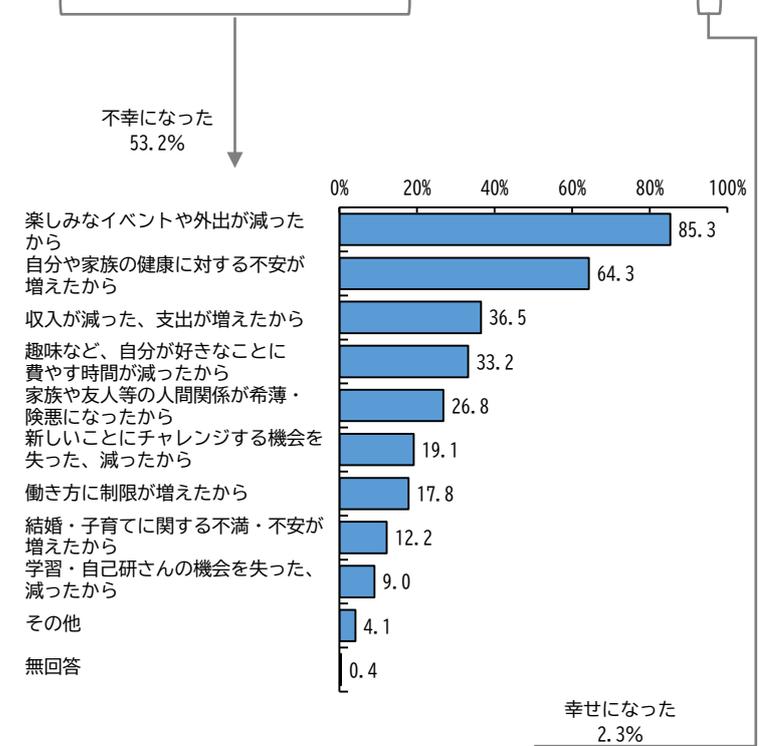
幸福感の変化

● 「大いに不幸になった」(5.3%)と「ある程度不幸になった」(47.9%)を合わせた53.2%は不幸になったと回答し、「ある程度幸せになった」(2.2%)と「大いに幸せになった」(0.1%)を合わせた2.3%は幸せになったと回答している。



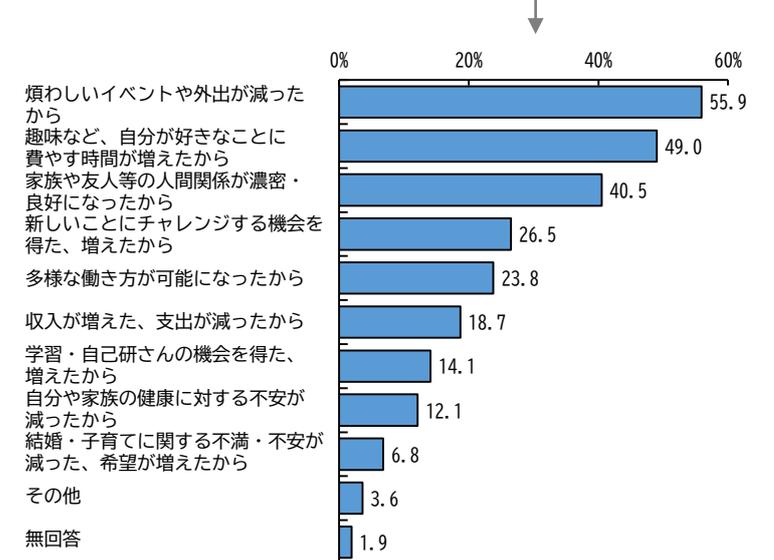
幸福感が不幸に変化した理由

● 「楽しいイベントや外出が減ったから」(85.3%)が最も多く、以下「自分や家族の健康に対する不安が増えたから」(64.3%)、「収入が減った、支出が増えたから」(36.5%)などとなっている。



幸福感が幸福に変化した理由

● 「煩わしいイベントや外出が減ったから」(55.9%)が最も多く、以下「趣味など、自分が好きなことに費やす時間が増えたから」(49.0%)、「家族や友人等の人間関係が濃密・良好になったから」(40.5%)などとなっている。



令和3年度

県政世論調査

概要報告書

令和3年 11月

編集・発行 静岡県知事戦略局広聴広報課 県民のこえ班
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電話 (054) 221-3232
F A X (054) 254-4032
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp
